

中森ふくよの生い立ち

中森ふくよは、昭和24年、東京都荒川区尾久に生まれ、祖父母、父母、叔父、叔母、従兄弟らと大家族で育った。祖母は、伊勢神宮の神官の娘として誕生し、西園寺公望、頭山満、宮崎滔天らとの親交も深かったとき。また、中国革命の父「孫文」が、東京での亡命先が不明とされていた時期、祖父の実家でもある群馬県の神保家に匿い、更に祖母の東京の住居（中森家）に匿っていた。（NHKで放映）

さいたま市には、40年前に移住。当時、国鉄から、東京始発への助力を請われた父、中森巖太郎のカバン持ちとして活動した。（当時・浦和・戸田・与野3市の沿線住民の猛反対で、大宮～東京間は測量にも入れず、東北新幹線の始発駅が、大宮駅となった。）

昭和52年、通勤新線（埼京線）の併設を条件に、新幹線建設推進運動を展開し、現・武蔵浦和駅の開設に力を尽くす。この時、現在の武蔵浦和駅周辺は、雨の度に、50cmを超えて度々道路が水没した。

住民にも県にも負担を掛けずに、道路下にダムを造ることで解決を図ったが、防災の為の国との折衝は、この時が、原点となっていると語っている。同時に、新幹線通過に伴う電波妨害の解消の為の組合を立上げ、後に、浦和ケーブルテレビネットワーク（現ジェイコムさいたま）を設立・発展の基礎を築き、代表取締役会長（H16年3月退任）を務めた父親の側近として、地域との結びつきを深めてゆく。このころ、大店舗法の撤廃について、異議の申立てを、当時の通産大臣の所に訪ねている。

保守系だが、「大多数の幸福を求めよ」という、祖父母の元で育った。



中国革命の父・孫文が祖父宛てに贈った書

中森ふくよプロフィール

総合商社ニチメン（双実）に就職しOL生活を送った後、父親の仕事に従事。平成6年、武蔵浦和駅南ビル「マーレ」の経営に参画

安心・安全・健康をテーマに、ビルの運営・管理に従事。平成13年、地域環境保全をテーマとした有機性廃棄物対策を推進するNPO法人エコバイオ推進機構設立に参画、現在副理事長。



同13年、埼玉県議会議員の補欠選挙に出馬し当選。平成15年4月、埼玉県議会議員2期目当選。県議として14回にわたる「県と県民のタウンミーティング」を開催、多くの県民の要望の実現に努力してきた。主としては、警察庁（国）に犯罪防止の窓口としての「生活安全局」の設置、「地域安全安心ステーション事業」「ジャンパー・腕章・ボランティア保険の支援等」を求め、署名活動をし、国会に働きかけて実現させた。又、病気等の身体の不自由な人への歯科医師の往診を埼玉から実現した。平成17年9月衆議院議員初当選。耐震構造化を目指し、耐震改修した場合の固定資産税の50%削減を実現。青少年の為の有害情報対策、中小企業の元気対策にを始め、現在「みんなで、勿体ない運動」に力を注いでいる。

衆議院議員 **中森ふくよ** 事務所

さいたま市南区白幡5-19-19
http://www.fukuyo-nakamori

TEL: 048-866-5116
FAX: 048-866-8555

衆議院議員

2009春



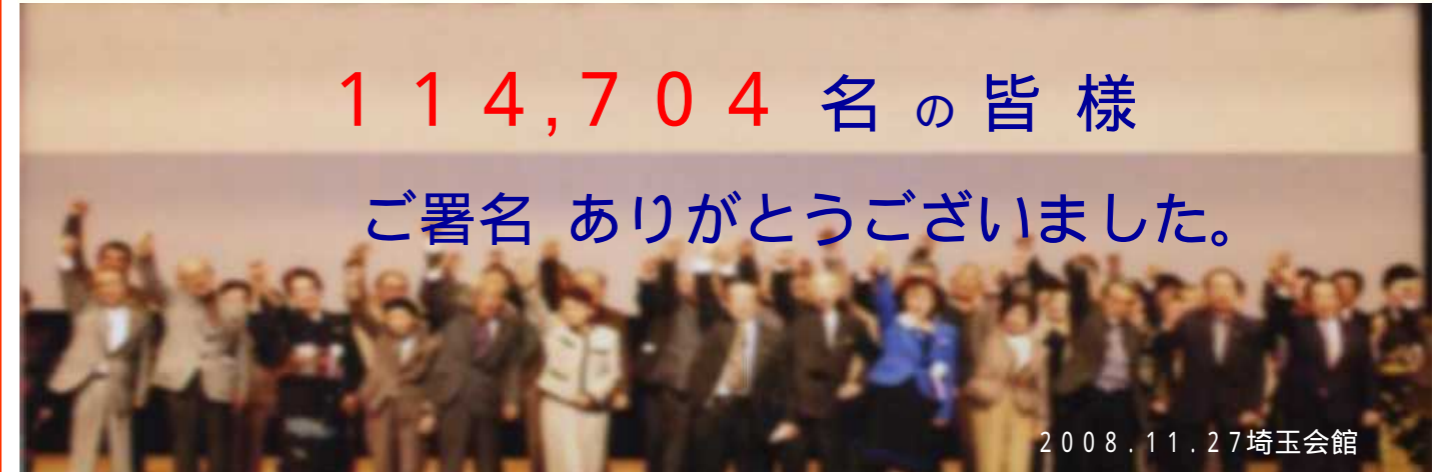
中森ふくよの活動日記

みんなで、もったいない！ 総決起報告会

～食資源を見直そう～

114,704名の皆様

ご署名ありがとうございました。



2008.11.27 埼玉会館

国への、3つの要望事項“お陰さまで、大きく前進致しました。

私たちは、食物を、大切にすることは勿論ですが、「食物」が捨てられてしまう現在の、法律や社会の仕組みを、見直すことで、食糧の安全確保が出来るよう、114,704名の署名と共に、国に要望致しました。結果として、下記の、、の“方向で、回答を頂き、大きく前進致しました。農家の収入は、収穫をお終えるまで何カ月もかかります。農家の収入の安定が、私たちの「食」の安全に直結いたします。農林水産省の皆様にも、「みんなで、勿体ない」のタウンミーティングにご参加いただき、農家の皆様との意見交換も有りました。これからも、消費者や国、そして私たち「みんなで もったいない」を継続致しましょう

要望事項と回答

要望

変形野菜の有効活用
産直販売の奨励や支援を行う



回答 来年度に向けて
物流費の予算請求をする

要望

・全ての農地の活用
・食糧自給率50%に



回答・自給率50%を目標
・耕作放棄地を無くす方針

要望

・賞味期限
・消費期限の見直し



回答 全面的な見直しの意向

ただ今「安全安心町づくり法案」提出中

現在、全国で
240万人が、防犯ボランティアとして、活動中

「地域が決めた安全への取組を支援」する法律

安全の為に地域(自治会等)の取組に
国が支援する法律を提案。



与党としては**決定**しました。

H20.6、衆議院議員

森 元総理大臣に、協力を要請。



決定した支援

国に生活安全局の設置
地域安全安心ステーション事業を開始
ジャンパー・懐中電灯 保険 等の支援
H16.11(県会議員)

37万名の署名を届け
国家公安委員長に要請。

ふくよ

しかし…
衆議院で“廃案”となる。

H16.7(県会議員)

国に 防犯ボランティアの支援
を求め、署名活動

要請した支援

防犯の統括機関の設置
防犯地区のモデル事業化
ジャンパー・電灯・保険の支給
H15.10~H16.7(県会議員)

防犯ボランティアの支援
を、県に提案

廃案

地域力で、犯罪を生まない社会を作ろうと、県に提案したが、廃案となる
H15.10(県会議員)

頑張れ 中小企業!!

420万社の倒産を防ぎ、
生活の安定を守る為に

中小企業の倒産を防止する“議員の会”を発足



新しい融資制度
国(保証協会)が100%保証します。
今回に限って、赤字でも大丈夫です。
現在の借入額と、別枠で借入できます
(例: 現在8千万円借入の場合、別枠で**同額**が
上乗せ出来る。(担保がある場合更に**2億円**追加)

「貸し渋り」や
「貸しはがし」
が行われない
よう、現レベル
場での監視を強
化することにな
りました。

アメリカ発の金融不安で、日本も景気が減速、中でも中小企業は資金難となっています。金融機関は、先行きの不安から、中小企業へ、貸出が難しくなる。その為H20.10月、国会内で「中小企業倒産防止の有志議員の会」を発足し、「中小・零細の資金支援」を下記の様に決議しました。

政府 全額保証による貸付の実施
融資基準を見直す。

次に、国会議員70名の署名と共に政府に、要請を続け、新たな融資制度が決定されました。

融資は、H20.11.4 開始

国土交通省に「生活道路」の明記を要請

生活道路の充実のために



国土交通省 道路局長へ
13,000の署名を届けました。

「毎日歩く道路」こそ、
国が先頭に立って整備をすることが求められています。
道幅を広げ、歩道にガードレールを設けるなどの整備を要請しました。

国交省の『道路整備中間計画』に
「生活道路の整備」が盛り込まれました。
平成19.11

夢と希望の「感動教育」の実現!

クリントン元米大統領は…

年月	科目	予算
2007年(平成19年)12月13日	木曜日	
08年度予算での文部科学省の概算要求		
主幹教諭	3899人	
事務職員	485人	
特別支援教育の充実	903人	
①教職員定数の増加		
食育の充実(栄養教諭)	157人	
習熟度別・少人数指導の充実	1907人	
計	7121人	(187億円)
②外部人材の活用	小学校高学年の専科非常勤講師など	5000校(77億円)
③事務の外部化	「小学校教諭地域本部」の設置など	2500カ所(100億円)

額賀財務大臣に

ふくよ

決定: 外部講師 7千名の予算確保
例: 北島康介 選手が、小学校に来て水泳を教える等

クリントンが在籍する高校を訪れた、ケネディ大統領。クリントンは、大統領の大きな手と握手をしました。後に「政治家を志すきっかけとなった」と語っています。

日本の子供たちにも、オリンピック選手や舞踊家・落語家等々と直接ふれあい、学び、感じることで、夢や希望、を抱いてほしい! 犯罪に染まることなく、未来に向かって歩けるように、さらなる感動教育の新規予算を確保しました。

教室不足の解消を要請!

伊吹 文部科学大臣

回答: 前向きな対処を、約束

再生医療の活用を目指す!

覗いているのは: 2cm程の細胞シートで、動いています